

発行・編集：合同会社ハトコロボ（平成26年度南城市尚巴志の語り部育成事業）

始まりがあれば、終わりがある。

平成二七年二月三日（火）に南城市尚巴志の語り部育成講座（全7回）が大里城址公園交流体験センターで開かれました。今回は最終講座ということもあり、講座の受講者だけでなく、見学する人たちも集まり、賑やかな会となりました。

前二回の創作のためのワークショップでは、参加者が想像力の翼を自由に羽ばたかせ、尚巴志の小物語を作りました。本講座の最終回は、その創作をまとめる形で、富田めぐみ先生が尚巴志の物語が完成させ、読み合わせを行うことが目的です。

はじめに、富田先生から、物語を作るときの状況や想いが語られました。その後、完成した物語が富田先生より読み上げられました。参加者は、十五分ほどの物語を、真剣な面持ちで聞き入っていました。

その後、参加者全員による朗読のためのワークショップが行われました。「尚」「巴」「志」3グループに別れ、各グループに割り振られた物語部をどのように読んでいくのが効果的なのか、真剣に話されました。本事業の事務局スタッフと南城市職員が中心となり音楽も付けられ、お披露目朗読ではまるで舞台であるかのような雰囲気となりました。



露目朗読ではまるで舞台であるかのような雰囲気となりました。

昨年十月から、尚巴志の歴史について学び、自由な発想からの創作へと講座が積み上げられてきました。多くの参加者はすべての講座に参加し、参加者同士の気持ちのつながりも強くなってきました。短い間でしたが、同じ時間と想いを共有してきた仲間たちの気持ちや語りから感じられました。この活動にまずは終止符が打たれますが、次の活動を感じさせる響きが参加者の声にはありました。

富田先生のオープニングの言葉から

ものを作ることは、自分を振り返ったり、気づかなかつた自分と遭遇することだと思えます。本事業の振り返りの言葉にも聞こえてきます。

一、今まで講座で見たり聞いたり、またみんなで作っていったことを「物語」に落とし込もうとしました。派手なものもできるが、地に足をつけたようなものを作るように心がけました。

二、この物語は「習作」であるということ。これから来年度にかけて物語をみなさんと作り上げていきたい。そのための骨格を作りました。

これからの創作の道を歩く中、どこへ向かうか不安になるかもしれませんが、みんなの手をつないで歩いていけたら良いです。

三、世の中では派手なものもてはやされるかもしれないが、私たちがもっているものを信じて表現してみるのも良いです。「かぎやで風」は何度も何度も見たり聞いたりしているが、歌詞の中で歌われていることは沖縄の美意識を表しています。私たちに根ざしたものを大切に、観客を信じて表現してみると、案外伝わるんですよ。

いつもホームランを打つことはできませんが、こつこつヒットを打っていくことで次の打者につなげていけるんですよ。

先生、ありがとうございます

改めて先生方にお礼を申し上げたいと思います。本事業では専門性にこだわるのではなく、参加している人たちの明日のエネルギーとなるような講座を開くことが必要でした。そんな事業の目的を理解し、参加者とともに実践してくれる先生を求めていました。最終講座の参加者の笑顔から、そのことが十分実現されたのだと実感しました。

上里先生には、「歴史」を教わったというより、「歴史」に参加することを教えてもらいました。私たちにとって尚巴志がどれだけ身近になったことか。

富田先生には、創造力を信じることを教えてもらいました。人々はその力を持つており、その力を発揮できる場を作ってもらったような気がします。

ほんとうにありがとうございました。今後もよろしくおねがいいたします。



語り部たちの美味しいおやつ

講座では琉球の歴史を想わせるお菓子を用意します。味覚からも歴史を感じてもらいたいからです。今回のドリンクとお菓子は、

- ・自然栽培の島生姜と有機栽培のほうじ茶
- ・謝花きつぱん店 冬瓜漬



事務局スタッフのひとこと

一言では何も言えない。僕たちの未来は僕たちで作るしかないですし、それが子どもたちの未来の前段へとつながっていくのだと思います。今後もよろしくお願ひします。(石田)

楽しいひと時をありがとうございました！学びと笑いがあり、毎回元気を頂きました。皆様のさらなる発展を期待しています！(佐藤)

みなさんありがとうございました！あつという間に講座が終了しましたね。でもこれから本当の始まりです。ぜひ、このつながりを広げて下さい。応援していますー！(岡元)

今後の予定

本年度事業を終了したため、このスペースは本来なら必要のないスペースです。しかし、二月三日の最終講座後に、参加者主催の懇親会での言葉が、本事業で一緒になった人たちの今後を生み出しました。

本事業のはじめにお配りした参加者募集のチラシを見ていただけると分かるかと思いますが、本事業の一つの目的に「参加者間のネットワーク」を作ることがあります。参加してもらう人たちは南城市内の小学校で読み聞かせをしていることが要件でした。物理的に参加が難しい久高島を除いて、市内のすべての小学校が繋がり合えるのがよいと考えていました。個別での繋がりがあっても、面としての繋がりが無い状態でした。今回幸運にも市内8小学校で読み聞かせをしている方々に参加してもらい、事業内外でさまざまな経験を共有してもらいました。そのことが事業を終了してもなお、続いていく活動へと結びつけたものかとても嬉しく思っています。

本新聞の表の富田先生の言葉ではありませんが、派手な活動でなくてもいいなと思っています。近くの人たちに広げていくこともできますし、世代を超えたつながりも作り出していくことができます。できる範囲で。

まずは一度終了符を打たせてもらいます。次もお会いできると嬉しいです。

**修了された方々で集まりを持つこととなったそうです。**

**日程や場所は今後決定されます。(おそらく3月) その情報については合同会社ハトコロポにお問い合わせください。(この下に電話・メールアドレス情報あります)**